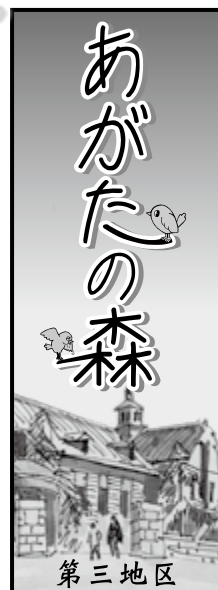




みつばちかふえは9月にチームオレンジまつもと宣言をし、松本市から認定されました。チームオレンジとは、認知症や物忘れがある方でも役割をもって楽しく活動に参加することにより、認知症の進行を予防したり、引きこもりがちな生活を未然に防ぎ、

9月30日(火)のみつばちかふえでは「チームオレンジまつもと宣言」のセレモニーと松本おはなしの会に所属する伊藤深雪さんによる「大人のおはなし会」が行われました。

毎月開催！  
気軽にきてね♪  
「みつばちかふえ」  
チームオレンジまつもと宣言をしました！



令和7年11月1日現在	
総世帯数	2,033世帯
総人口	4,060人
男	1,931人
女	2,129人

また、「大人のおはなし会」では、源池小学校6年1組の児童が地域の高齢者の方達と交流をしたいという希望があり、一緒に伊藤さんのお話を聞きました。始めと終わりにオルゴールを聞いて心を落ち着かせ、手あそびや言葉あそびなどもしました。最後は、洗濯バサミゲームをして楽しみ、内容盛り沢山なみつばちかふえは終了しました。

(曾根 淳子)



認知症の人やその家族へ早期から支援を行う取り組みのことです。

第三地区公民館に戻り、「お蚕さまから生まれた街」のアニメーションを見ながら、今井五介氏の偉大な足跡に思いを馳せるのでした。

(三代澤 英明)

## 第三地区の歴史と文化を巡る

10月2日(木)、都市計画家の倉澤聡さんの説明を聞きながら、まちあるき講座が行われました。

今回は、かねてから見学希望がありました、松商学園の今井五介像を見ることができました。小林正則教頭の案内で講堂に通されると、それは高さ3.4mの圧倒される大きさのブロンズ色に塗られた石膏像でした。五介氏が松本の発展に貢献した功績を讃えるのにふさわしい大きさかもしれません。

その後、古い校舎の中央玄関から入り、大きな精工舎の振り子時計のある階段を上ると、歴史栄光室がありました。中島治康氏を始めとする野球の歴史を伝える展示の中に、NHKドラマ「青天を衝け」の主人公渋沢栄一氏の書がありました。「好

学近乎知」今井五介氏の依頼で揮毫されたもので「学を好むは知に近く」と読むそうです。改めて五介氏の経済界での人脈の広さを感じます。



あがたの森、旧松本高等学校



イオンモール松本(旧片倉製糸工場跡)



今井五介像(松商学園所蔵)

詐欺の手口別では、電話でお金詐欺(警察官などを名乗り、銀行口座や携帯電話、クレジットカードが不正に使用されているとだまして送金させる)が23件、SNSを使った投資・ロマンス型の詐欺が22件で圧倒的に多い。

(武井 厚)

今年8月と9月に地元新聞に掲載された、いわゆる特殊詐欺45件の長野県内の被害総額は、8億9224万円である。未掲載のものや警察への届出がないものも含めれば、県内で1年間に数十億円以上になるものと思われる。





# あがた児童センター秋まつり開催！

9月27日（土）、あがた児童センターにて秋まつりが開催されました。今年は子どもたちの中から実行委員を募り、企画会議から当日の運営まで子どもたちが主体となって秋まつりを作り上げました。

友達と一緒に  
かき氷を食べたり、  
SLに乗ったりして  
面白かった!!

スライム係  
うまくできたけど、  
渡したあとスライムの  
フタが外れて大変だった

受付も楽しかった!!

マイクを持ってしゃべるのが  
緊張したけどうまくできた！

秋まつりでNo.1～2で  
例えると、No.1はかき氷、  
No.2はSLです

## ◆ ◆ 各町会の活動紹介コーナー ◆ ◆

### 【四ツ谷町・金山町・四ツ谷東】 3町会親睦マレットゴルフ大会

～ 結果 ～

優 勝 四ツ谷町  
準優勝 金 山 町  
3 位 四ツ谷東



ゴルフのあとの  
一杯は最高だ  
なあ…!



中山霊園マレットゴルフ場で毎年開催されている四ツ谷町・金山町・四ツ谷東3町会親睦マレットゴルフ大会が9月28日（日）、選手19人の参加で行われました。昨年は雨でコースコンディションが悪かったため、運営役員の苦渋の決断により競技は中止し、懇親会のみ行われました。今年は残暑の和らぐなか晴天に恵まれ、久しぶりにスティックを握る方、日頃から熱心に練習されている方、初めての方など様々な方に参加していただき、競技も懇親会も楽しく大いに盛り上がりしました。（四ツ谷東町会 進藤 薫）

## ボランティア部会 視察研修

9月22日（月）に、ボランティア部会の視察研修で長野市豊野防災交流センターに行きました。令和元年に発生した台風19号災害の被害状況をお聞きした後、実際にセンター内を案内していただき、水害の怖さと、災害に備える大切さを実感しました。水害時に使う救助用ボートは、地元の消防団員がすぐに使えるよう訓練しているそうで、自分達で被害を減らす努力が大切だと感じました。まちのいたるところに、水害時の高さを表す看板もついていて、減災に取り組む意識の高さを感じました。（降旗 都子）



救助用ボート



浸水の危険性を示す看板



屋上へつづく避難はしご